

## 基盤共同研究 海域・海村の景観史に関する総合的研究

期間：2015 年～

〔所員〕 安室 知 内田青蔵 大川 啓 小熊 誠 姜 明采 木下直之 久留島典子  
昆 政明 後田多敦 周 星 須崎文代 角南聡一郎 関口博巨 泉水英計  
高城 玲 道用大介 中林広一 平井 誠 平山 昇 廣田律子 前田禎彦  
丸山泰明 山本志乃 吉澤達也

〔客員研究員〕 橋村 修 橋本道範 松田睦彦 〔特別研究員〕 小野寺佑紀

〔研究協力者〕 有馬絵美子 太田原潤 丹羽英二（歴史民俗資料学研究科博士後期課程）

## 2022 年度 活動報告

安室 知

### 〔研究目的〕

本研究所はその発足の早い段階から漁業制度資料等による海域・海民史の研究に取り組み、これまでも能登半島や瀬戸内海の二神島といった地域で多くの研究蓄積をなしてきた。また近年は、国際常民文化研究機構のもと「海域・海民史の総合的研究」として3つの共同研究がおこなわれた。本共同研究はそうした研究蓄積を継承し発展させるものとして位置づけられる。

海は水産物だけでなくさまざまな資源を生み出す。そして、その開発・利用に当たっては、人・物・情報の行き来を促し、そうした営みを通して社会知や民俗知が膨大に集積される空間となっている。反面、負の記憶として、海域の利用をめぐるのは、個人や村のレベルから国際的な問題までさまざまな対立や紛争を生んできたし、また海という大自然とたえず対峙する海村では大きな災害や事故が歴史的に繰り返されてきた。そうした海域海村の歴史文化について、絵図として残された景観を手がかりに、本研究所の人的資源を活用し学際的に研究することが本共同研究の目的となる。

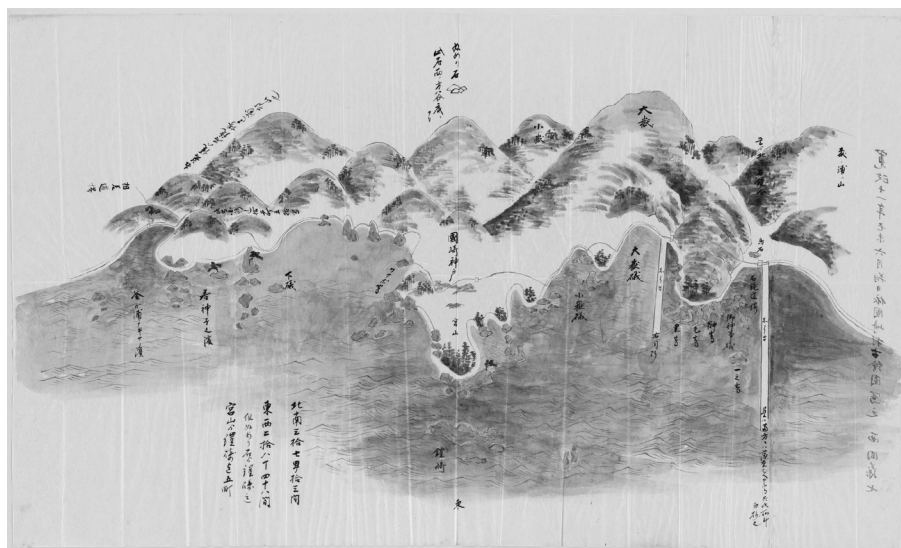


写真1 志摩国答志郡国崎村沖領主差上絵図

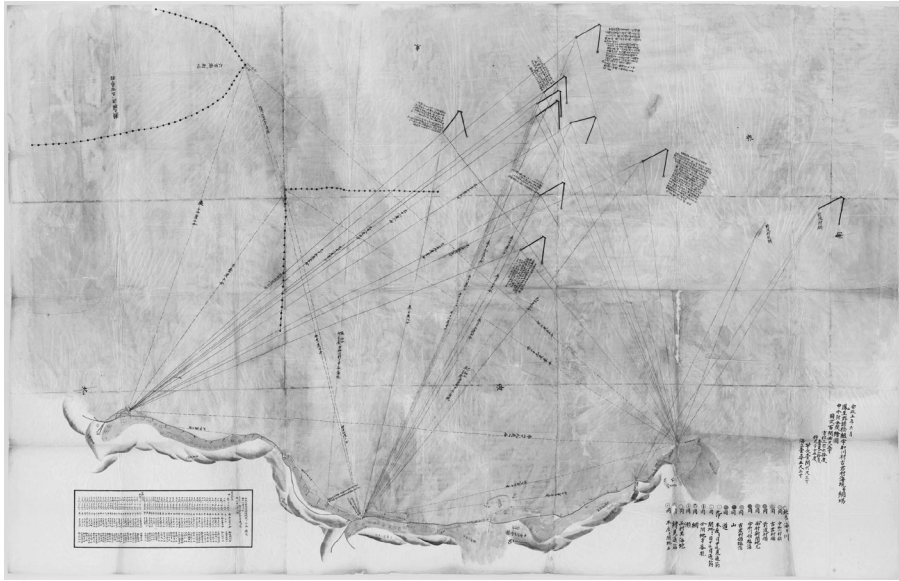


写真2 石川県鳳至郡沖定置網場争論絵図

#### [2022 年度の主な活動]

2022 年度は、昨年度に引き続き、本共同研究の成果物として予定する「漁場図データベース」の制作に向けて、基礎的な資料の整理作業およびデータベース仕様の検討をおこなった。また、データベース作成に目的を絞り、研究代表者と研究協力者を中心とした研究会（非公開）を 5 回おこなった。「漁場図データベース」制作については、日本常民文化研究所創立 100 周年記念事業に位置づけ、2022 年度から 3 年計画で特別予算を得ている。なお、本年度より、有馬絵美子（歴史民俗資料科学研究科博士後期課程）氏が研究協力者として本共同研究に参加し、山本直美（常民研職員）氏もデータベース作成の業務に協力している。

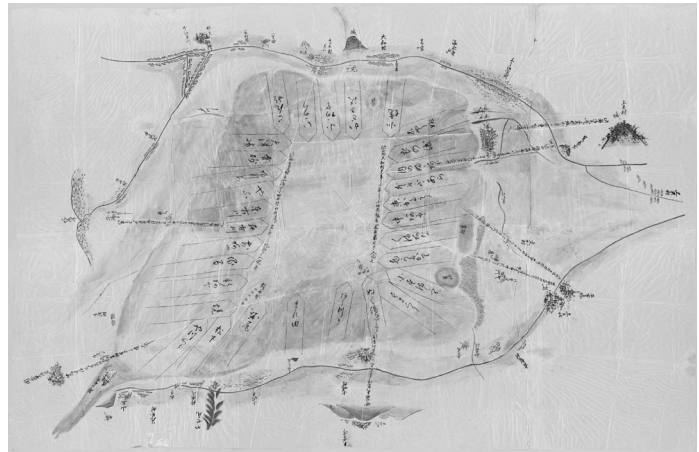


写真3 諏訪湖水面利用絵図

#### ■ 2022 年度の活動

- 2022 年度第 1 回（通算第 11 回）研究会（非公開） 2022 年 4 月 21 日 日本常民文化研究所  
安室知・越智信也・山本直美、太田原潤・丹羽英二・有馬絵美子（院生）
- 第 2 回（通算第 12 回）研究会（非公開） 2022 年 9 月 29 日 日本常民文化研究所  
安室知・越智信也・山本直美、太田原潤・丹羽英二・有馬絵美子（院生）
- 第 3 回（通算第 13 回）研究会（非公開） 2022 年 10 月 27 日 日本常民文化研究所  
安室知・越智信也・山本直美、太田原潤・丹羽英二・有馬絵美子（院生）
- 第 4 回（通算第 14 回）研究会（非公開） 2022 年 12 月 8 日 横浜キャンパス 9 号館 9-212 室  
安室知・越智信也・山本直美、太田原潤・丹羽英二・有馬絵美子（院生）
- 第 5 回（通算第 15 回）研究会（非公開） 2023 年 2 月 1 日 日本常民文化研究所  
安室知・越智信也・山本直美、太田原潤・丹羽英二・有馬絵美子（院生）
- 漁場図資料集成・データベースの作成（通年） 有馬絵美子・太田原潤・丹羽英二（院生）